

千年の森便り No.182

2018.09. 21

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

9月17日(月)

参加は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、栗山、坂本、高橋洋子、田島、成沢、福島、真鍋の12名の会員に、県森林課の色川さんが参加され、合計13名でした。

17日は豊英島へ向かう途中の畔や土手にヒガンバナが咲き始めて、秋の訪れが実感できました。特に集合場所となっている大岩の農産物直売所周辺や旅名集落到沢山植えられていて、地元では観光資源化を目指しているようです。



今回は千葉県庁の新人で森林課に配属されたばかりの色川さんの初参加で、当日の平均年齢が随分引き下げられました。若い人が加わると其だけで雰囲気が変わります。高橋さんは料理上手でいつも何かを提供してくれるので、大事に抱えた籐バスケットの中身に期待が高まりました。お昼には沢山の珍味を頂き皆さんが喜んで「活動日の年間計画は高橋さんの来られる日に合わせるべき」と冗談も出ました。

シカ調査では家族群と思われる一団の目撃が相次ぎ盛り上がりしました。その他の活動は各担当会員の報告通りです。

事故もヤマビル被害も無く、通り雨の直前に島を出られてラッキーでした。来月は公開行事で多くの来訪が見込まれますので、迎える側の会員の皆さん宜しくお願いします。(坂本)

〇ニホンジカ生息状況調査

9月活動日の最初の活動として、ニホンジカ生息状況調査を行いました。この調査は、3か月ごとに年4回実施している調査で、今回は2018年度の2回目になります。

いつものように島内を7コースに分けて一斉に踏査を行い、足跡、フンなどの痕跡を含めシカの生息状況を調査しました。調査時間は10時から約30分です。調査の結果は、7コース(真鍋さん、観察記1)で5頭、3コース(坂本さん)で4頭、千年広場近くで(新井さん、観察記2)が4~5頭が、ほぼ同時に目撃されました。状況からみて、これらは同じ群れ(5頭)で角が無かったことからメスとその子供からなる家族群と思われます。生息状況調査の中でのシカの目撃は2017年6月以来です。今回は目撃者も多く、久しぶりに活気のある調査となりました。(福島)

(観察記1)ニホンジカ調査コースNo.7(島入り口からホテイ岬に向かう東コース)を担当しました。千年広場からホテイ岬に向かう下り坂で、西方向後方から轟音が聞こえたので、見上げると西隣No.6コースの観察路をニホンジカが1列になってホテイ岬方面に駆足行進、後ろ姿を見てその壮観に圧倒されながら、頭数を数えると5頭、慌てて時計を見ると10時11分でした。慌てふためいて首のカメラのシャッター切るのを忘れ、非常に残念。急いでホテイ岬に降りてみましたが、シカの姿も足跡も見当たらない。一行は西側急斜面から湖面に飛び込んだのかもしれませんが。(真鍋)

(観察記2)入島して直ぐにシカ調査が始まり、広場に着いて一息していると左目の端っこに薄茶服を着た人間が勢いよく走り去るような異変を感じ、びっくりして目をやると4、5頭の角無若シカが等間隔を保って南から北へ駆け抜けて行きました。ほんの1秒位で姿が消えてしまい、もしかしてUターンしたのかと直ぐに行ってみましたもう気配はありませんでした。今までのシカ調査では糞を見ただけだったのでしばし興奮して

しまいました。こんなに多頭が上陸して食餌しているなら囲いのない場所の緑が少なくなったりヤマビルが増えるのも当然なんだろうなと思いました。（新井）

○ギャップ林の手入れ

ギャップ林内作業として皆でアセビ始め他の萌芽枝整枝等で汗を流しました。

昨年の今頃はオトコエシ、オケラ、シロヨメナ、シラヤマギクなどの花が複数本見られましたが今年は木々の中に紛れていたシラヤマギクがたった1本咲いていただけでした。（ナガバノコウヤボウキは被害がなく咲いていました）



ノウサギ食害対策として防護ネットの裾に重い丸太を置きました。これならノウサギもネットをくぐれないでしょう。（新井）

○昆虫観察記録

今日は真夏日で蒸し暑く、ツクツクボウシが一日中鳴いています。ムラサキシジミはウラジロガシの冬芽に、ナミアゲハはサンショウの葉に産卵



ムラサキシジミの産卵



ムラサキシジミの卵



ニホントビナフシ

しています。ムラサキシジミは成虫越冬。産みつけられた卵は冬までに成虫になれるかどうか心配です。成沢さんがニホントビナフシを見つけてくれました。後翅はきれいなピンク色をしており、「この小さな翅では飛べないのでは？」と、一緒に観察しました。



ショウジョウトンボ



シオカラトンボ

ダム湖の観察

今月もダム湖は水位が低いので、干上がった地面の観察をしました。ダム湖の上をオオヤマトンボ(先月羽化殻発見)とギンヤンマがパトロール。水際の枝では真っ赤なショウジョウトンボとシオカラトンボが、時々翅を休めています。湿った地面の草地は、



キクツキコクリグモ(1cm弱)



クモバチの一種

バッタやコオロギの棲家になっています。お尻に卵のうをつけているキクツキコモリグモ(お母さんグモ)は、よく見るとコオロギを口にくわえています。今度は、なんとクモバチがやってきて、キクツキコモリグモをサッと捕え、口で引っ張っていきました(このハチは、自分が食べるのではなく幼虫のためにクモを狩って巣に運ぶ狩りバチの仲間です)。湖底になったり、干上がったりするわずかな場所で、小さな生き物が食べたり食べられたり…、ドキドキする場面に出会えました。

(他に観察された昆虫) ツツレサセコオロギ、オカメコオロギの一種、マダラスズ、ハラヒシバッタ、サトクダマキモドキ、ウスイロササキリ、アカサシガメ幼虫、ツマグロオオヨコバイ、アオバハゴロモ、オオセンチコガネ、コイチャコガネ、クロウリハムシ、マルガタゴミムシ、トラマルハナバチ、スジボソコシブトハナバチ、トゲアリ、ムネアカオオアリ、シロフアブ、ジャコウアゲハ、カラスアゲハ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジチョウ、コミスジ、クロコノマチョウ、ヒカゲチョウ、イチモンジセセリ、ホタルガ、ヨツメヒメハマキ、マダラマルハヒロズコガ幼虫、クスサン繭殻 (田島)

〇きのこ色々

降り続いた雨のせいか、林床にはきのこがいっぱいで、二ホンジカ調査の行きも帰りも、きのこに目を奪われるほどでした。特にイグチ科のヤマドリタケモドキやアカヤマドリ、(アメリカウラベニ)イロガワリなどが目立ちました。広場のテーブルに集まったきのこを分類して、種名の分からないものもありましたが、名前の付いたものが約 20 種ありました。(真鍋)



ヤマドリタケモドキ



アカヤマドリ



イロガワリの仲間(福島)



ベニタケの仲間



ノウタケ



ナカグロモリノカサ(福島)



オチバタケの仲間(福島)



アンズタケ(坂本)

〇小さい秋見つけた

秋本番前に、実が熟す一歩手前のコナラ、カクレミノ、ヤマボウシ、シロダモ、シャシャンボを確認しました。ヤマボウシは一部が熟し始め、吊橋から広場までのけもの道にも真っ赤な実が落ちていました。広場のヤマボウシは見事に下枝から頂まで、緑色、黄色、赤色と色とりどりの実をたくさんつけていました。

広場の片隅にチヂミザサが咲き、林床には咲き終わったイチヤクソウ、ギャップ更新林保護柵内にはナガバノコウヤボウキ、わずかに残った 1 本のシラヤマギクが咲いていました。

保護柵脇の日当たりのよい場所に 5,6 匹のカナヘビがいました。そのうちの 1 匹が伐採木の上にじっとしていました。(秋元)



ヤマボウシ



ナガバノコウヤボウキ



シラヤマギク



カナヘビ



シャシャンボ(真鍋)



ネコハギ(福島)



キハギ(栗山)



ヤマハギ(福島)

シャシャンボは今年初めて数百個の実をつけました。新井さんの意見では被覆樹木を伐採して日照がよくなったせいでは?とのこと。高木 1 本伐採したその効果は大!! 11 月熟した実の味見にご期待下さい。(真鍋)

○島外農地周辺の草刈と枝払い

島に通じる道路の両側に雑草が茂って、車をこすりかねない状態になったので、シカ調査後昼食までの約一時間刈払機で除草しました。害獣防護柵の金網や金属支柱に刃先を当てぬよう慎重にやったので、面倒でした。実際に自分でやってみるまで、農家のご苦労に気づかず恥ずかしい思いです。

山側から垂れ下がった枝も車の天井に当たることから、福島さんと成沢さんが枝払いをしてくれました。事前に計画した仕事では無いので、高枝切りや脚立の用意が無く、どうするのかと思って見ていたら、二人とも慣れた手つきで、そこらにある適当な枝の先に鋸を結び付けて即席の道具を作っていました。(写真④)



これが結構使える優れもので、たちまち邪魔な枝が取り払われました。流石です。

午後もし引き続き草刈をしましたが、及川さんから刈払機の扱いを引き受けると申し出があったのでお願いする事として、私は金網下を手鎌で刈りました。時間切れで完全には出来ませんでしたが、ひとまず急場は凌げました。及川さんはいい汗をかいたと満足顔でした。皆さんお疲れ様でした。

農地の利用はまだ手付かずですが、地主さんや地元農家との関係で信頼を得るのに必要な作業と思います。来年度は年間計画に盛り込んだら良いと思います。(坂本)

○同じ穴のムジナ

8月20日17時43分、吊り吊り橋を通る4頭のアナグマが写りました。3頭の陰にもう一頭の背中が見えています。家族でしょうか。ところでアナグマの別名はムジナ(貉)とも言い、土中の穴や木の洞と一緒にまとまって棲み、時には同じ巣に狸が混じる事もあるそうです。そんな生態から同じ穴の貉の言葉が出来たと思いますが、関係無いように見えても、実は裏で通じて悪事を企む仲間の意味です。タヌキが人を化かす悪者と信じられた時代、同じ穴に棲むムジナも同犯者と見なされたのでしょう。(坂本)



アナグマ 20180820 センサーカメラ

○野鳥記録 調査時間が取れず、記録はありません。

千年の森の活動に参加して

色川拓実さん

橋を渡って島に入るとき、久しぶりにワクワクしました。前日の雨のおかげで成長した沢山のキノコや、希少なヒメコマツ。あの島では、今まで見たことのない植物に触れることができますし、普段何気なく眺めていた植物のこともより深く知ることができました。参加された皆様の暖かいサポートや知識があることで、そういった経験をすることができたので、本当に感謝しています。今回はシカに遇えなかったので、次はどんな動物でもいいので遇いたいです。

お知らせ

○10月の活動日

10月14日(日) 秋のきのご観察会 中央博物館の吹春氏を講師に秋のきのご観察会を実施します。清和県民の森木のふるさと館駐車場に9時30分集合です。詳細は案内チラシをごらんください。なお、千葉駅NTT前7時30分発のバス便(負担金1,000円)に若干の残席があります。利用を希望する方は、伊藤事務局長(michio-ito26@gmail.com)までご連絡ください。